

豊川市本庁舎等整備工事基本設計 概要版

令和8年3月

目次	01
基本理念・基本方針	02
基本設計コンセプト	03
敷地条件	04
計画概要	05
建替計画	06
とよかわテラス	07
階層構成	07
配置・動線計画	08
平面計画	09
断面計画	12
外観計画	13
防災・環境計画	14

※本資料に含まれる画像等の無断での転載・使用はご遠慮ください。
※本資料内の図面等は基本設計時点のものであり、今後の検討において変更となる場合があります。

はじめに

昭和44年に竣工した現本庁舎は、老朽化や狭あい化、バリアフリー化やユニバーサルデザインへの対応等の課題を解決するため、令和6年8月に「豊川市本庁舎等整備基本計画」を策定しました。その後、基本設計に着手し、ワークショップなどによる市民の意見や議会からの意見などを伺いながら基本設計をまとめました。本資料は、基本設計における考え方と概要を示すものです。

キャッチコピー

歴史をつむぎ みんなで創る 未来への庁舎

基本理念

基本理念1：すべての人にやさしく開かれた庁舎

- ・庁舎は様々な人が訪れる行政サービスの中枢拠点であるため、スムーズに手続きでき、訪れた人が不便や不安を感じることはないよう、誰にとってもわかりやすく利用しやすい庁舎とします。
- ・長い歴史の中で受け継がれた豊川らしさを踏まえた誇りと親しみを感じられる庁舎とします。

基本理念2：安全・安心と柔軟性を備えた庁舎

- ・庁舎は市民の安全・安心な暮らしを支える災害時の中枢拠点であるため、必要な耐震性能と耐久性能を備え、災害発生時にも業務を円滑に継続できる庁舎とします。
- ・将来の組織変更や職員の増減など、行政の役割の変化に対応できる柔軟性を備えるとともに、ライフサイクルコストの削減に努めるなど、財政負担の軽減に配慮した庁舎とします。

基本理念3：最先端かつ健全な市政を支える庁舎

- ・庁舎は地域の先導的施設としての役割を有しているため、環境負荷の低減や地域産材の活用など地球環境にやさしい庁舎とします。
- ・先端技術を積極的に導入し、市民サービスの向上や無駄のない効率的な職場環境、議会機能を実現し、健全な市政を支える庁舎とします。

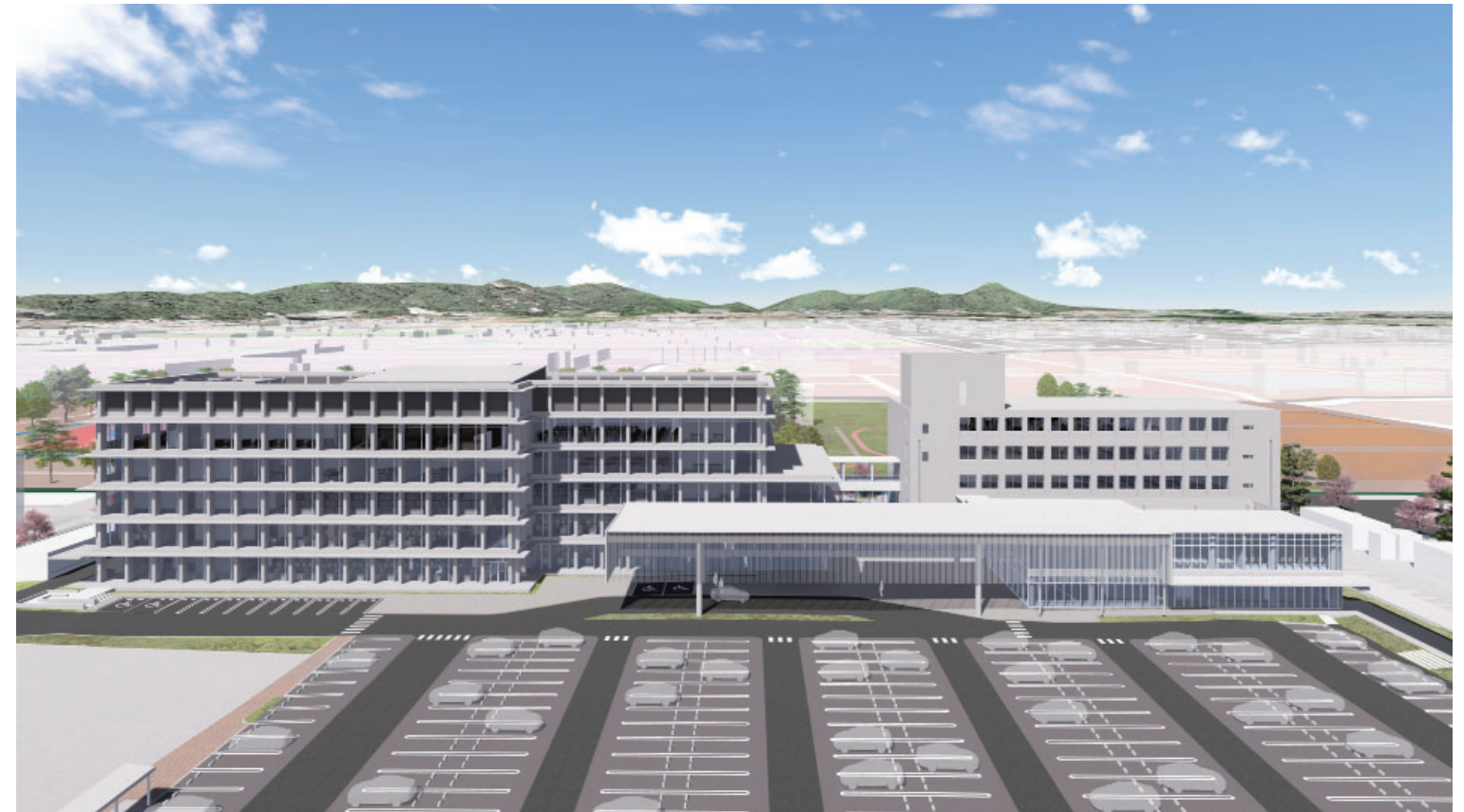
庁舎整備の方針

- 方針1 スムーズに手続きできる庁舎 …… 窓口・相談機能
- 方針2 誰もが利用しやすい開かれた庁舎 …… ユニバーサルデザイン、アクセス機能、交流・学び機能
- 方針3 誇りと親しみを感じられる庁舎 …… デザイン・シンボル性、利便機能
- 方針4 災害発生時にも業務を円滑に継続できる庁舎 …… 災害対策、バックアップ機能
- 方針5 社会情勢の変化に対応できる庁舎 …… 可変性
- 方針6 財政負担の軽減に配慮した庁舎 …… 長寿命化
- 方針7 地球環境にやさしい庁舎 …… 環境機能、緑の空間・地域産材の活用
- 方針8 効率的な職場環境が整った庁舎 …… 執務環境、文書管理・収納機能、情報・通信基盤
- 方針9 議会機能が十分に発揮できる庁舎 …… 議会機能

これまでの経緯

- 令和5年9月 【豊川市本庁舎等整備基本構想策定】
現庁舎が抱える、老朽化や狭あい化、バリアフリー化やユニバーサルデザインへの対応等の課題を解決するため、基本理念および基本方針を定めました。
- 令和6年8月 【豊川市本庁舎等整備基本計画策定】
必要な本庁舎の規模、機能、建物配置、事業方式および整備スケジュールについて方向性を定めました。
- 令和7年2月～令和8年2月 【豊川市本庁舎等整備工事基本設計】
建物の構造や配置、各階のレイアウトおよび備えるべき機能など、基本的な方針となる基本設計を作成しました。

イメージパース



敷地南側正面から望む

※ 保存する松については引き続き検討を行い、イメージパース上の表現と変更となる可能性があります。

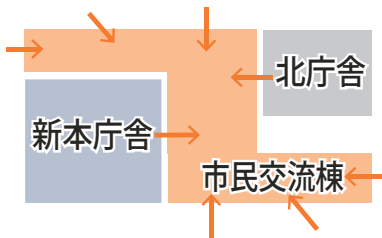
基本設計コンセプト

基本理念1 すべての人にやさしく開かれた庁舎

市民サービスと市民交流の視点

**1 市民交流を促し
活気を生み出すこと**

「とよかわテラス」でつなぐ



まちにひらかれた庁舎

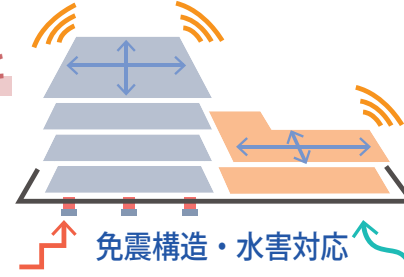
- 行政手続きに加え、市民の交流・学びが生まれるひらかれた庁舎 (方針 1・2)
- 周辺的环境や施設との連携により市民の活動をつなげ、まちの魅力が向上する庁舎 (方針 3)

基本理念2 安全・安心と柔軟性を備えた庁舎

災害や社会変化に対し継続可能な視点

**2 「いつも」の場所が
「もしも」の時に活躍すること**

可変性の高い長寿命庁舎



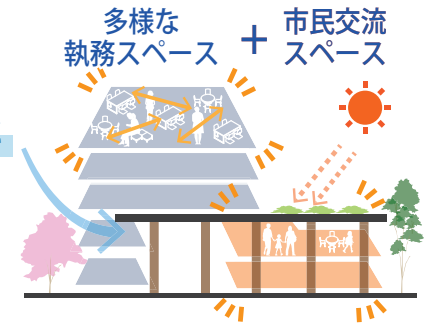
いつもの場所=もしもの備え

- 地震や水害時にも機能を維持し、まちの安全を守る災害に強い庁舎 (方針 4)
- 今後の行政機能の変化に対応できる可変性の高い、長寿命庁舎 (方針 5・6)

基本理念3 最先端かつ健全な市政を支える庁舎

将来に対応する機能と環境配慮の視点

**3 将来の変化に備え
環境をリードすること**



環境配慮型の庁舎

- 緑の保全や地域産材の木材の活用などまちの環境をリードする環境配慮型庁舎 (方針 7)
- 将来のレイアウト変更に対応できる執務環境に、業務の効率性や多様な働き方をサポートする機能のある庁舎 (方針 8)
- ICT を活用した議会運営 (方針 9)

イメージパース



敷地南東側から望む

イメージパース



敷地北西から望む

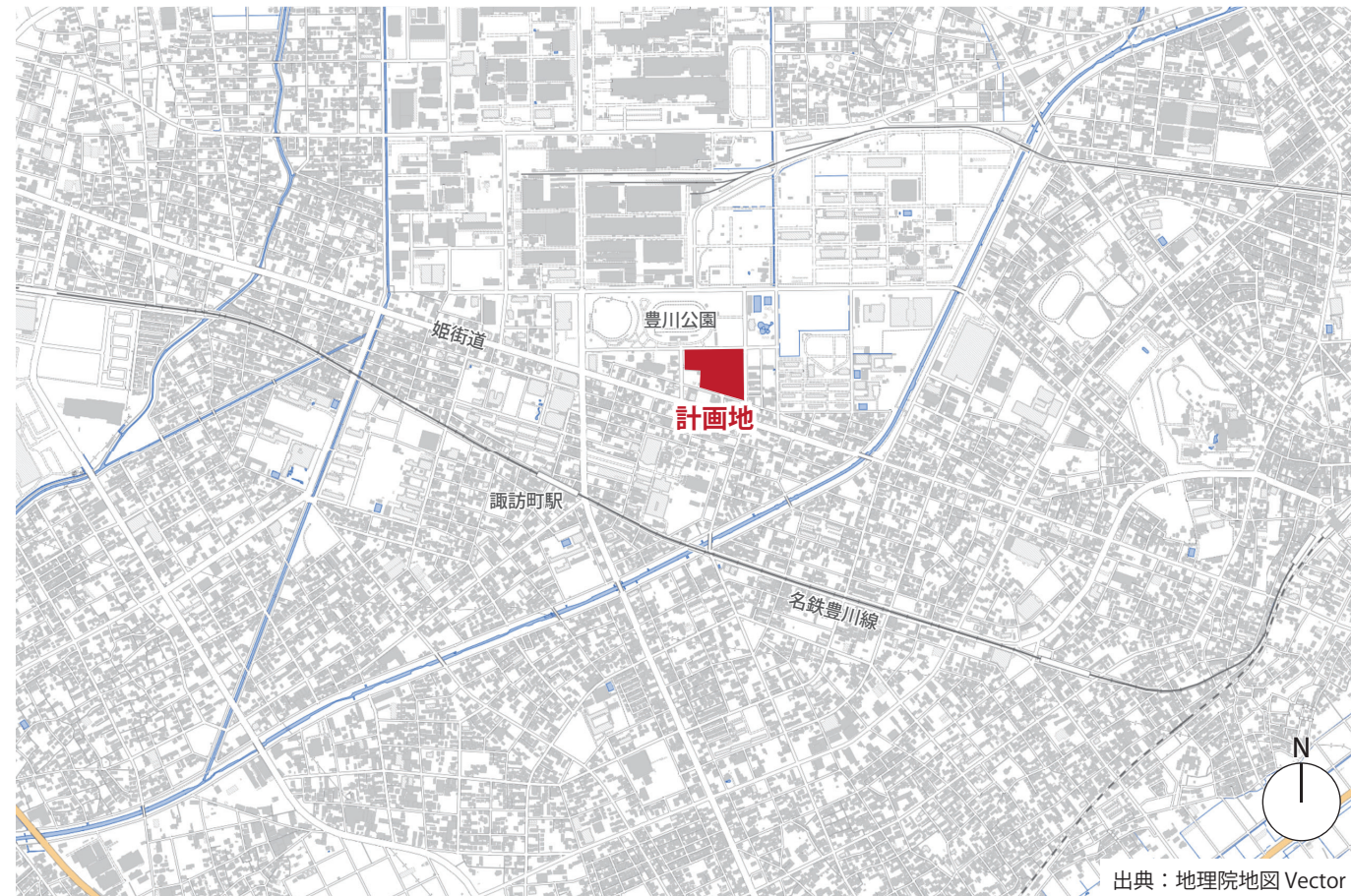
※ 保存する松については引き続き検討を行い、イメージパース上の表現と変更となる可能性があります。

敷地条件

敷地概要

所在地 : 愛知県豊川市諏訪1丁目1番外3筆
事業区域 : 21,888.64 m²
用途地域 : 第2種住居地域
地域地区等 : なし
防火地域等 : 準防火地域
その他地域 : 市街化区域、都市機能誘導区域
許容建ぺい率 : 70% (60+ 準防火内耐火建築物等 緩和 +10%)
許容容積率 : 300%
日影規制 : 5時間 3時間 (測定水平面 GL+4m)
道路斜線制限 : 勾配 1.25
隣地斜線制限 : 20m・勾配 1.25
必要緑化面積 : なし
騒音規定値 : 朝 : 45dB 昼 : 50dB 夕 : 45dB 夜間 : 40dB
前面道路 : 南…市道 12031 号線 幅員 4.0m
東…市道 12015 号線 幅員 17.23m
西…市道 12001 号線 幅員 18.26m
既存建物 : 北庁舎 (地上 5 階地下 1 階 / 鉄筋コンクリート造 / 延床面積 5,257.07 m²)
防災センター (地上 2 階 / 鉄筋コンクリート造 / 延床面積 1,205.61 m²)

案内図



出典：地理院地図 Vector

位置図



出典：国土地理院撮影の空中写真 (2020年撮影)

現地写真



A : 敷地南側より望む 既存本庁舎



B : 敷地北西から望む 既存本庁舎と北庁舎

計画概要

	基本設計	
	新本庁舎	市民交流棟
階数	地上 5 階建	地上 2 階建
建築面積(m ²)	約2,900	約1,300
延床面積(m ²)	約11,100	約1,200
(合計)	約12,300 ※	
建物高さ(m)	約24	約9
構造	混構造(鉄筋コンクリート造+鉄骨造) 免震構造	鉄骨造
基礎	杭基礎	直接基礎

※基本計画での試算面積は約13,000m²

空調換気設備計画概要

熱源設備：空気熱源ヒートポンプモジュールチラー
空調設備：執務室 空調機+外気処理空調機
会議室等 ファンコイルユニット+外気処理空調機
議場 直膨コイル式空調機
災害時利用室 ビル用マルチエアコン（GHP）+全熱交換器
時間外利用室 ビル用マルチエアコン（EHP）+直膨コイル式外気処理空調機
換気設備：第1種換気、第3種換気
排煙設備：自然排煙、告示による排煙設備免除

給排水衛生設備計画概要

給水設備：給水系統 上水 市水
雑用水 井水
給水方式 上水 受水槽（2槽式）+加圧給水方式
雑用水 受水槽（2槽式）+加圧給水方式
給湯設備：電気温水器による個別給湯方式
排水通気設備：屋外 汚水・雨水分流 / 屋内 汚水・雑排水合流
消火設備：屋内消火栓設備、連結送水管、消火器
ガス設備：都市ガス

電気設備計画概要

受電方式：高圧2回線受電（引込既設再利用）
受変電設備：変圧器容量 1,450kVA（既設 1,000kVA）
非常用発電機：ディーゼルエンジン発電機 500kVA
太陽光発電装置：太陽電池パネル 10kW（既設再利用）
電灯設備：LED照明（センサーやスケジュール管理による照明制御）
コンセント設備：事務室内ハーネスジョイント+OAタップ方式 40VA/m²
情報・通信設備：構内情報通信網設備、構内交換設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、情報表示設備、映像・音響設備、駐車場管制設備、拡声設備
防犯設備：監視カメラ設備、防犯・入退室管理設備
防災設備：非常用照明・誘導灯設備、雷保護設備、火災報知設備、無線通信補助設備
充電設備：電気自動車充電設備（既設再利用）
特殊設備：議場映像・音響設備、委員会システム設備、議員登退庁表示設備

概算事業費（税込み）

概算予定事業費：約 113.3 億円（消費税及び地方消費税を含む）
（内訳）

建設工事費：約 84.5 億円（新本庁舎の建設）
改修工事費：約 13.1 億円（北庁舎の大規模改修）
外構工事費：約 9.3 億円（駐輪場、植栽、給排水などの整備）
解体工事費：約 6.4 億円（本庁舎及び附属棟の解体）

※新分庁舎の工事費は含んでおりません。

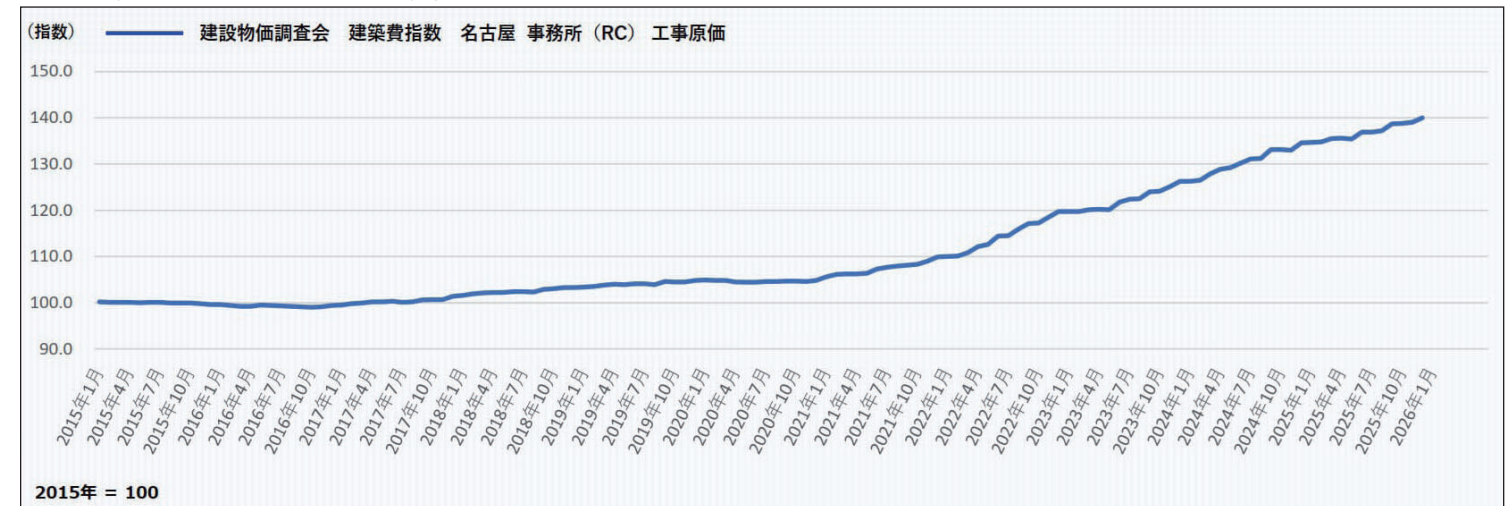
※概算事業費は基本計画策定（令和6年6月）時点での試算であり、今後の算出は初期投資費用（イニシャルコスト）だけでなく、維持管理に必要な費用などを含めたLCC（ライフサイクルコスト）を検証し、実施設計完成時に確定していきます。

※アスベスト調査結果や地盤調査による杭基礎の選定、また工事原価の上昇（以下参照）により、事業費の上昇が見込まれます。

建築概算費の変遷（参考）

建築費指数について、その動向は次のとおりです。

〈建設物価 建築費指数（工事原価）〉



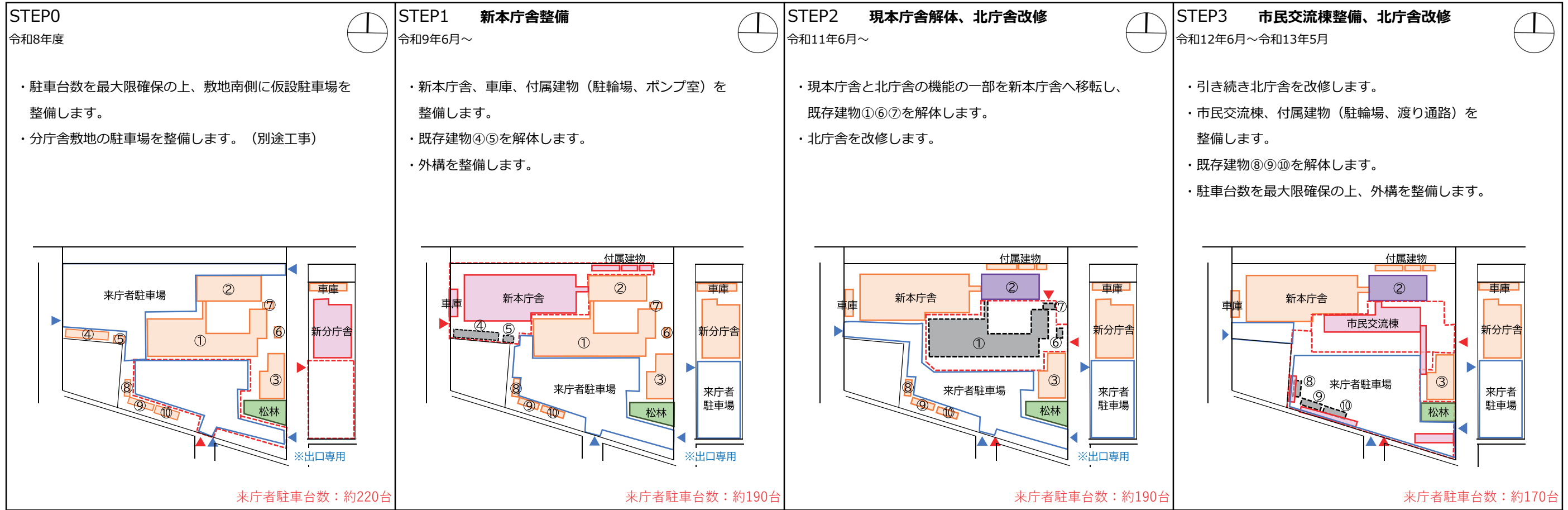
工事原価が上昇している主な要因

- 働き方改革への対応
一週休2日制の導入に伴う工期延伸及び経費増加により、工事原価が上がっています。
- 人手不足に伴う人件費・労務費の上昇
一週休2日制の導入に伴う工期延伸及び経費増加、技能労働者の高齢化などにより、賃金水準や手当が上がっています。
- 建設資材・機器・設備工事の価格上昇
一原材料の供給制約、円安、原油高、国際情勢 コロナ禍・ウクライナ情勢などが重なり、資材・エネルギーコストが上がっています。
- 需要拡大による施工能力の逼迫
一大都市での新規開発・再開発、外資系投資によるデータセンターや半導体工場などの大型プロジェクトが増加しています。
一その結果、施工会社は採算性や労働条件の良い案件を選別して受注する傾向が強まり、見積価格が上昇しています。

今後の見通し

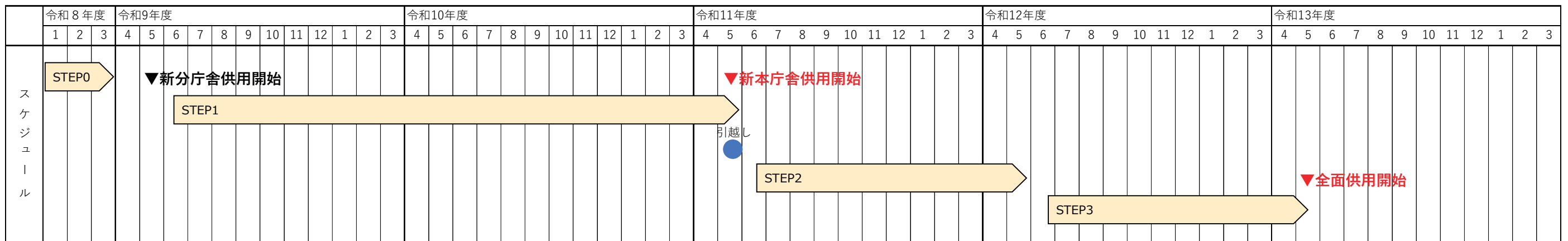
- 2022年から2024年にかけての急激な価格上昇は、現在やや落ち着きを見せていますが、依然として上昇傾向は続いています。
- ただし、2024年の働き方改革対応、大型プロジェクトの同時進行、資材価格の高止まり、労働力不足が重なり、施工会社の選別受注は継続しています。
- 当面は不透明な状況が続き、厳しい市場環境が数年程度継続する可能性があるため、工事原価の上昇以上に事業費を精査していく必要があります。

■ステップ図



- 凡例
- ▲ 来庁者車両出入口
 - 来庁者駐車場
 - ▲ 工事車両出入口
 - 工事範囲
 - 使用建物
 - 計画建物
 - 改修建物
 - 解体建物
- 既存建物
- ① 本庁舎
 - ② 北庁舎
 - ③ 防災センター
 - ④ 倉庫
 - ⑤ ごみ集積所
 - ⑥ ポンプ室
 - ⑦ 自転車置場
 - ⑧ 自転車置場
 - ⑨ 自転車置場
 - ⑩ 自転車置場

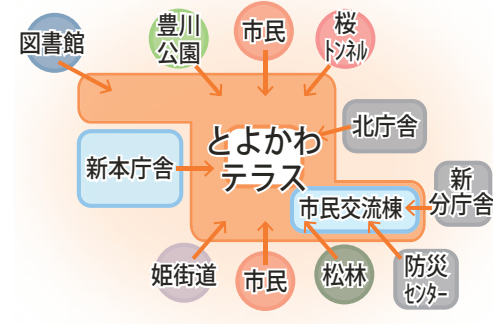
■スケジュール



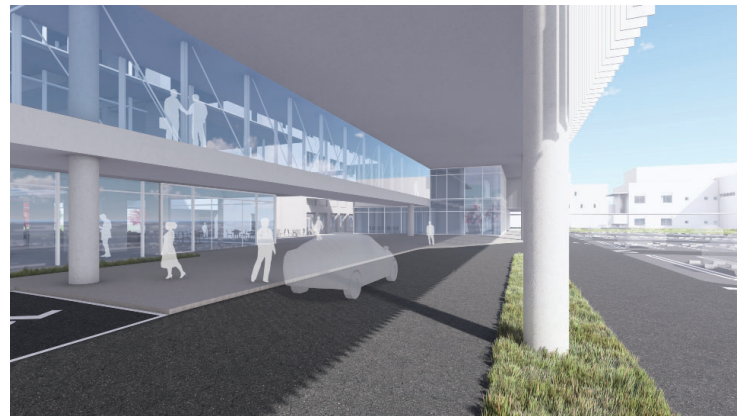
・今後の検討によりステップ図及びスケジュールが変更となる場合があります。

ひととみどりと賑わいをつなぐ『とよかわテラス』のある真に市民にひらかれた庁舎

豊川市の優れた「ひとと地域のつながりの豊かさ」の特性を発揮することが、子育て、福祉、市民交流を活性化し、市民に親しまれる新しい庁舎の実現につながると考えます。
 また、地域の「歴史をつなぐ」ことが市民の誇りとなると捉え、街道の景観や桜トンネル、松林、旧東海道の宿場町といった豊川市の原風景を活かすつくりとします。
 歴史や周囲の景観を引き込み、市民の活動をつなげる「とよかわテラス」によって誇りと親しみを感じられる庁舎をつくりま



イメージパース



ピロティを望む

イメージパース



敷地北側から中庭を望む

①「まち」の結節点となる庁舎

- 市の東西軸「姫街道」から新庁舎を介して「豊川公園」へと南北をつなげ、市の中心拠点としての利便性と機能性を向上させます。
- 桜トンネルに沿って公共施設群が並ぶ地域の利点を継承・活用し、新庁舎によって東西の市民活動の連携を強化します。

② とよかわテラスでつながりをつくる

- 「く」(かぎ)型の「とよかわテラス」を中心に各棟と防災センター、新分庁舎、図書館を含めた市民活動をつなぐつくりとします。
- 「とよかわテラス」を中心とした構成により、周辺をつなぎ、みどりをつなぎ、人の流れを生み出します。

③多様な世代の利用に配慮

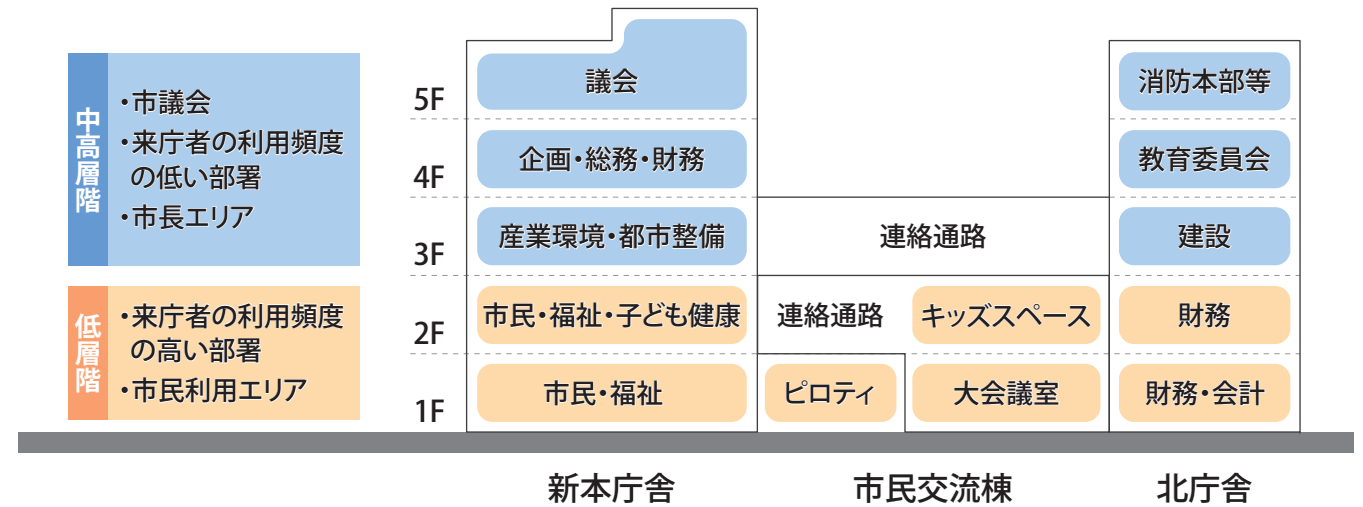
- 新本庁舎の多目的スペースや休憩・展示スペースは市民にひらかれた場所とします。
- 市民交流棟には夏場のクーリングスポットや子育て世代が親子で使用できるキッズスペース、学生が学習に利用できる什器などを配置するなど多様な世代にひらかれたつくりとします。

④各機能を分かりやすくつなぐ

- 中庭に面して各棟の諸室が顔を出すつくりとすることで、各棟へのアクセスが分かりやすくなるよう配慮します。
- 各棟へのアクセスルートには庇を設けることで来庁者動線に配慮した計画とします。多目的スペースは期日前投票など多用途に運用できます。
- ピロティは災害時にも有効なスペースとして機能します。

新庁舎等の各階の配置構成は、低層、中高層に分け、以下のような機能を配置します。

階層	主な機能配置
中高層階	<ul style="list-style-type: none"> 議会機能は上層階のワンフロアに集約して配置します。 来庁者の利用頻度の低い部署を中心に執務室を配置します。 情報管理などの高度なセキュリティ対策を備えた機能を配置します。
低層階	<ul style="list-style-type: none"> 来庁者の利用頻度の高い窓口及び部署を低層階に配置します。 イベント等にも活用できる多目的スペースや展示・休憩スペースを配置します。 時期による臨時的な窓口の開設にも対応できる多目的な会議室を配置します。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 北庁舎は、新本庁舎と一体的に活用します。 スムーズな人の流れやセキュリティに配慮し、来庁者の動線と業務上の動線を分離した配置計画とします。 障害のある方への合理的配慮に関する環境の整備を含め、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインを実践します。



配置・動線計画

庁舎アクセスの考え方

- ・歩行者動線は、姫街道、東西、中央図書館、公園側それぞれの方位からの利用者の出入口を4方に設けます。
- ・車両動線は、南側をメイン入口として、進入後は左折し一方通行とすることで、動線の混乱が起きないように配慮した計画とします。
- ・各棟の中心にピロティを設け、雨に濡れない安全な車寄せを設置します。
- ・新本庁舎から新分庁舎への最短ルートとなる動線を確保することで、行き来のしやすい計画とします。
- ・豊川市のシンボルであるクロマツを出来るだけ残す計画とします。

動線計画

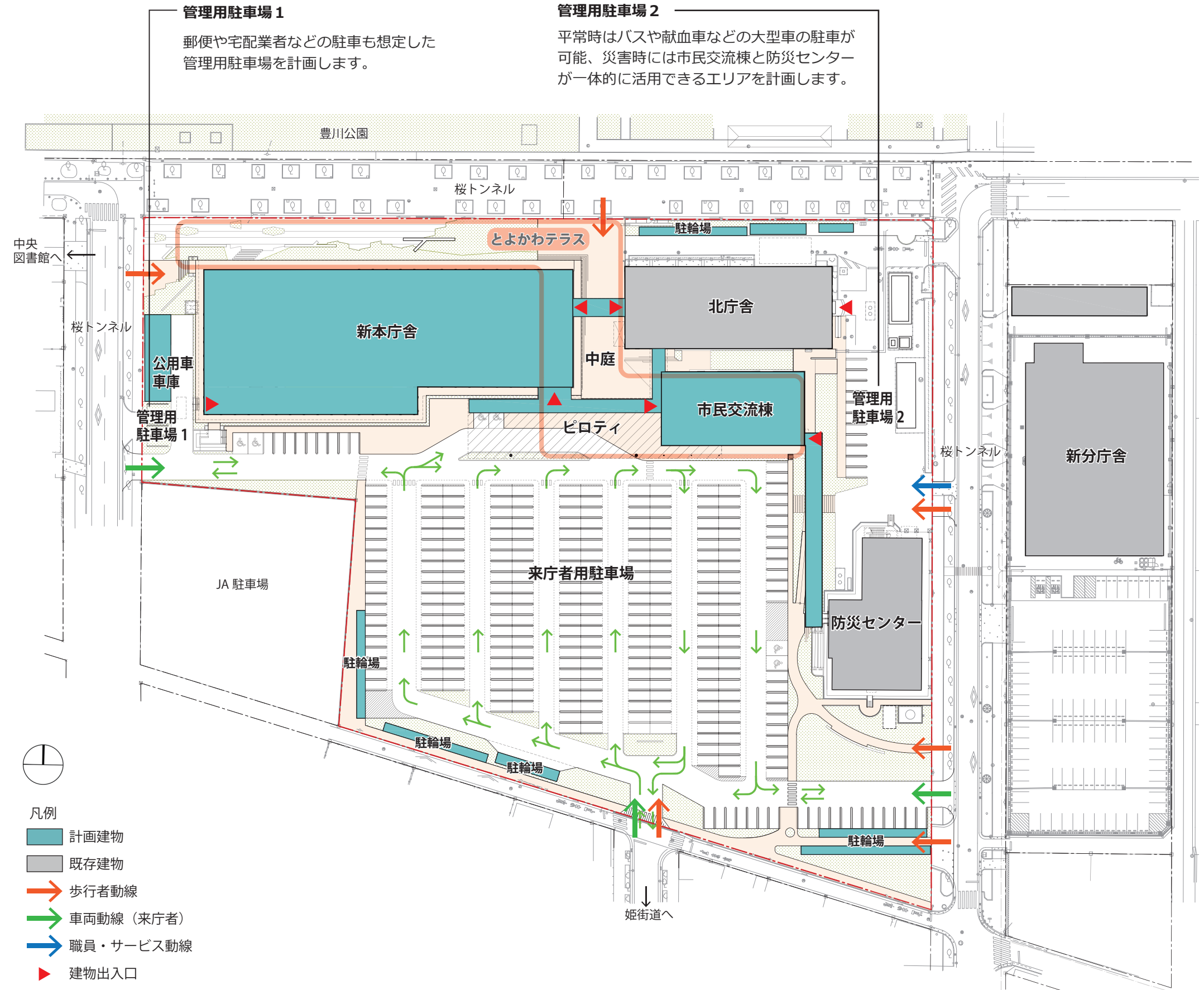
- ・新本庁舎と市民交流棟の出入口付近にはエレベーターを設置します。
- ・2階に屋内渡り廊下を設け、各棟に移動する計画とします。
- ・新本庁舎と北庁舎は3階の屋外渡り廊下で移動可能な計画とします。
- ・市民交流棟と防災センターを屋根付き通路で接続し、新本庁舎から防災センターまで風雨に当たらず移動できる計画とします。
- ・車寄せ庇を計画し、雨天時の動線に配慮します。

周辺環境への配慮

- ・姫街道からの視認性に配慮し、正面性のあるピロティを計画します。
- ・敷地北側は敷地境界と新設建物間に空地を設けることで、公園側への圧迫感を和らげる計画とします。
- ・敷地北西側に歩行者出入口を設け、中央図書館との繋がりを設けます。

駐車場計画

- ・来庁者用駐車場は新庁舎南側に来庁者用駐車場 300 台を計画します。
- ・車椅子駐車場・思いやり駐車場は分散配置し、利便性に配慮します。
- ・管理用駐車場は西側に公用車車庫を含め 8 台、東側に 11 台を計画します。
- ・駐輪場は来庁者・職員用約 290 台を計画します。

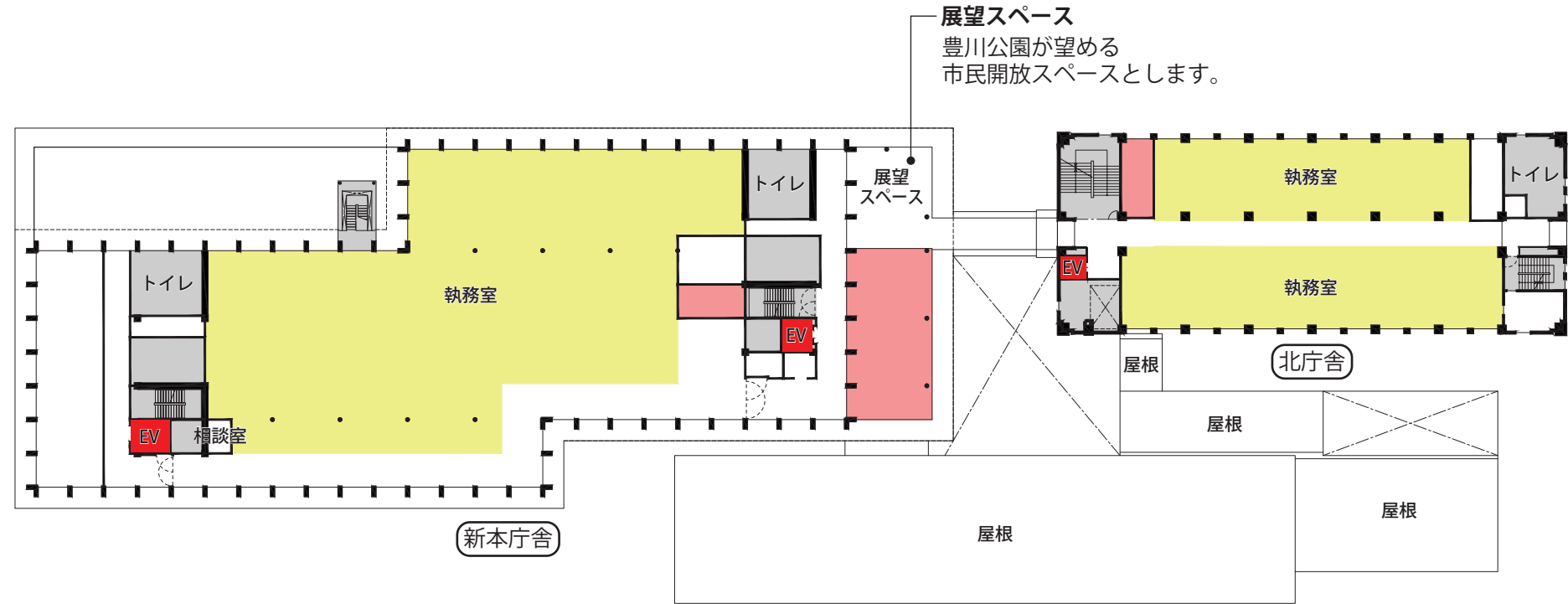


※ 保存する松については引き続き検討を行い、図面上の表現と変更となる可能性があります。

3F

新本庁舎：執務エリア
産業環境部・都市整備部

北庁舎：執務エリア
建設部

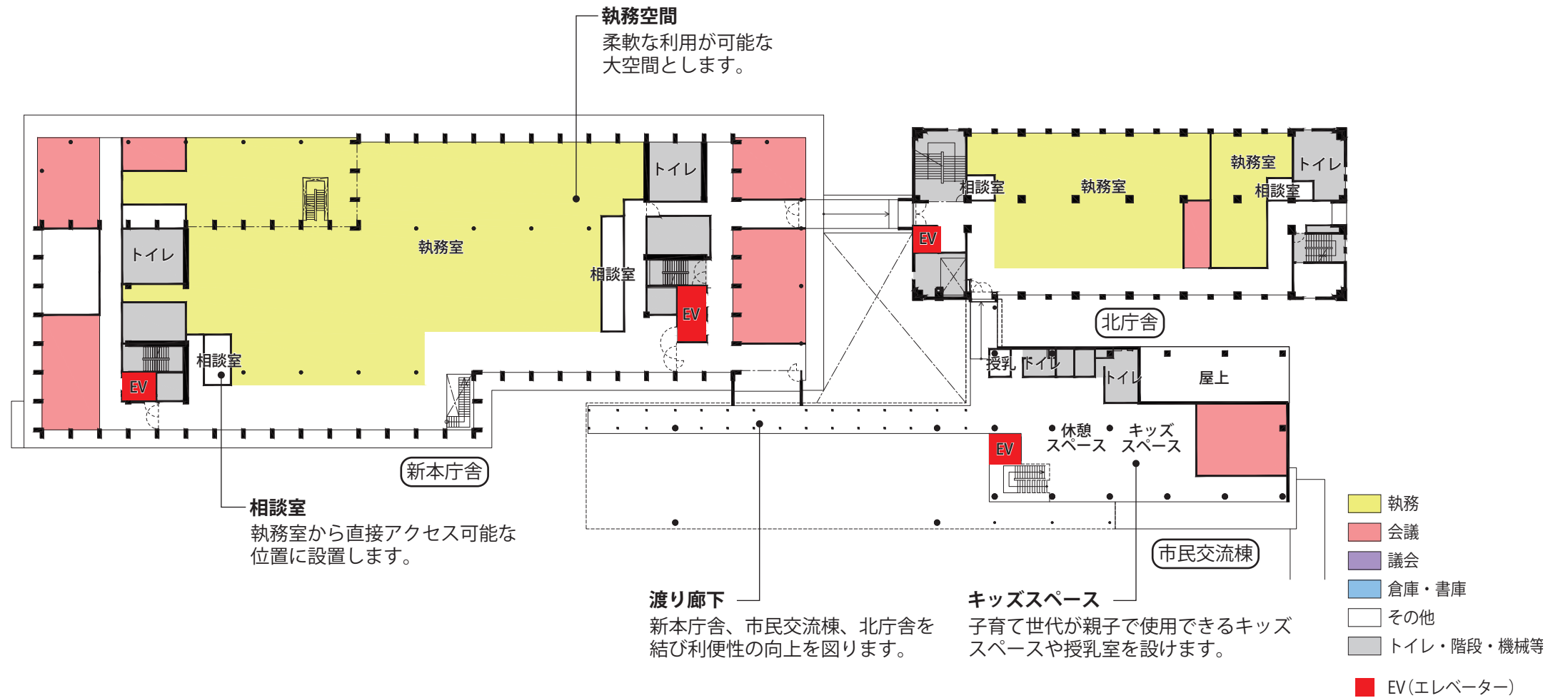


2F

新本庁舎：市民窓口エリア
福祉部・市民部・子ども健康部

市民交流棟：キッズスペース等

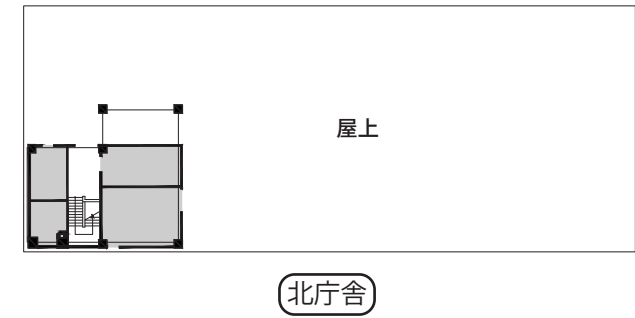
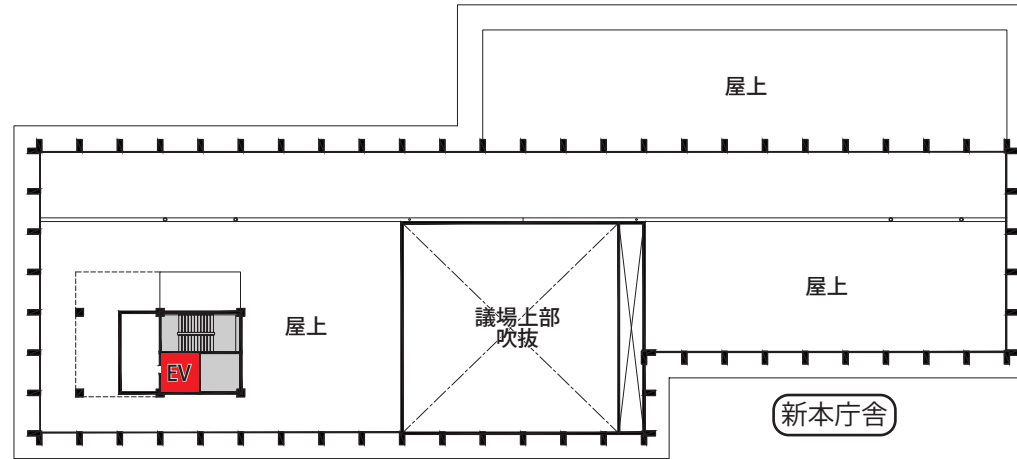
北庁舎：市民窓口エリア
財務部



RF

新本庁舎：設備機械置場

北庁舎：機械室



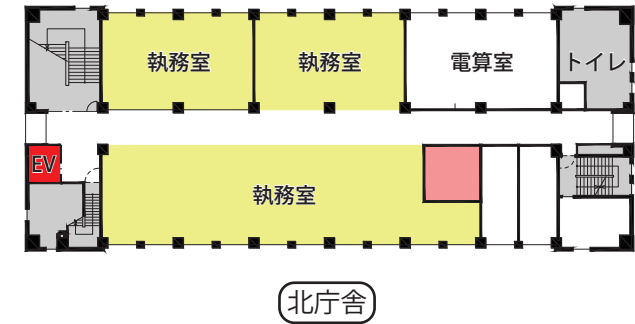
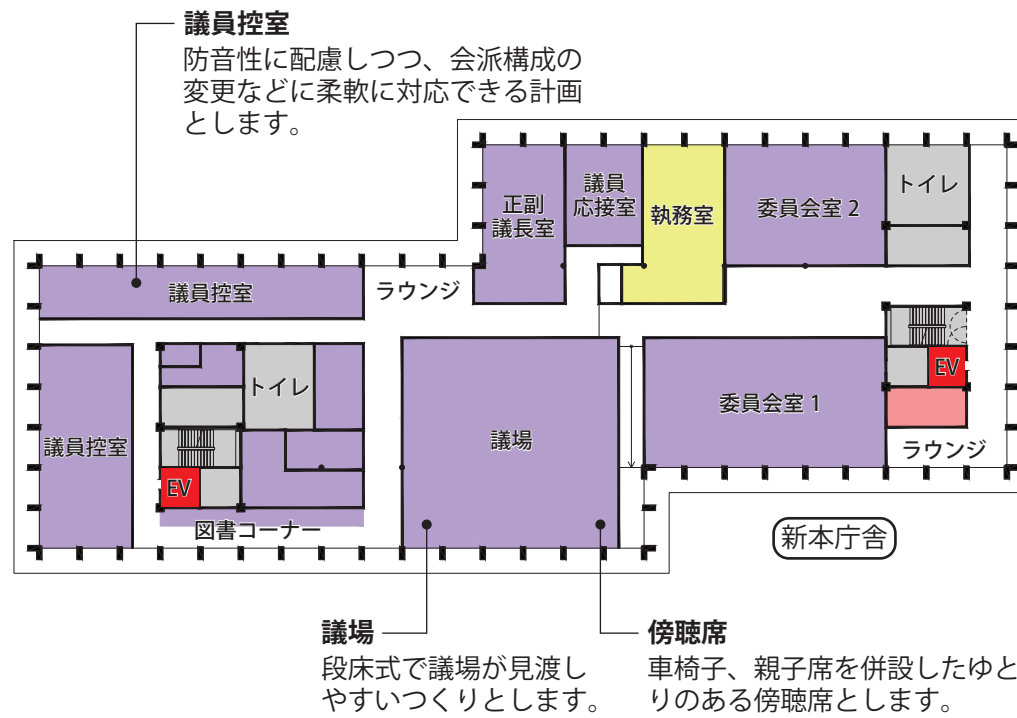
5F

新本庁舎：議会エリア

議会諸室・議場

北庁舎：執務エリア

消防本部等



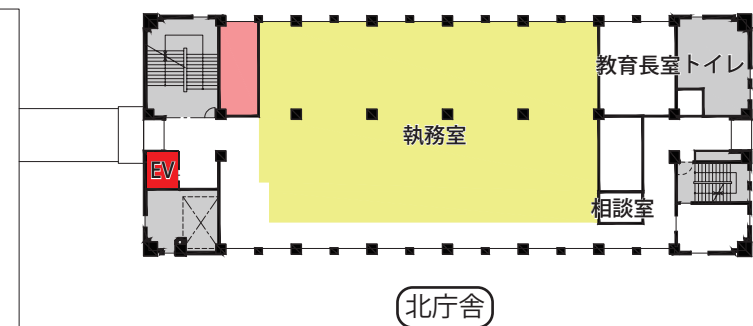
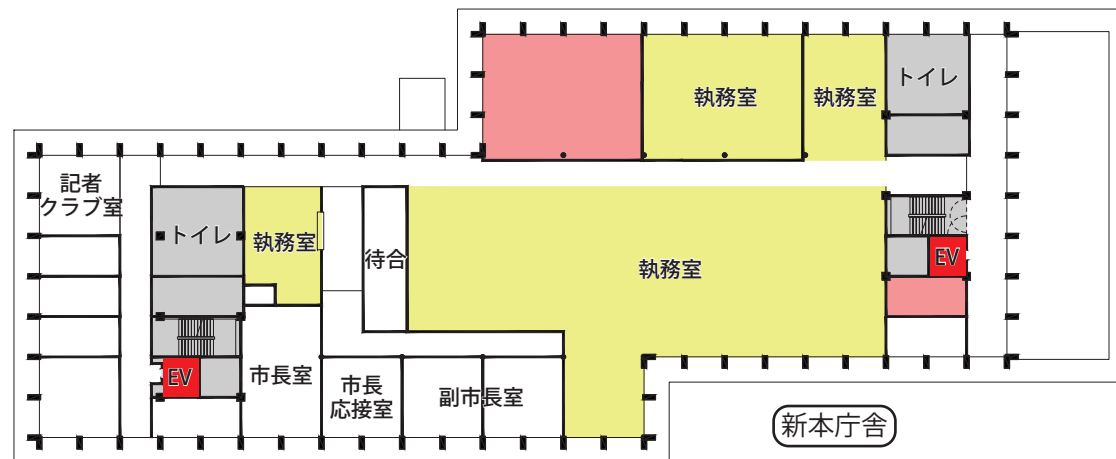
4F

新本庁舎：執務エリア

市長室等・総務部・企画部・財務部

北庁舎：執務エリア

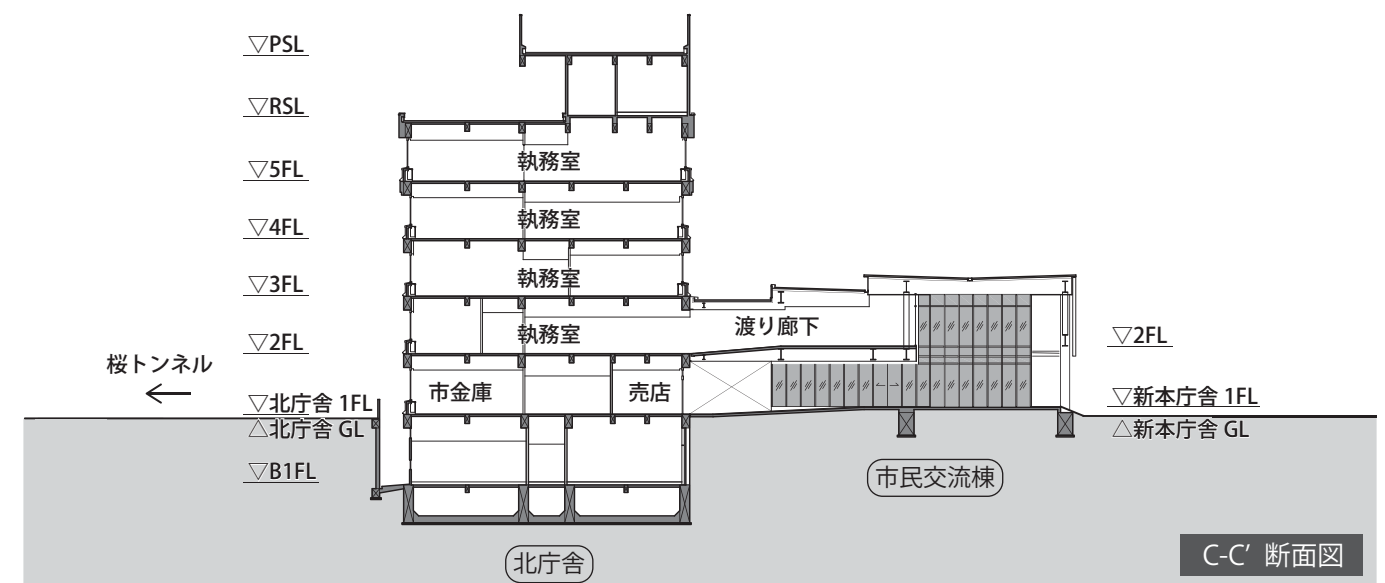
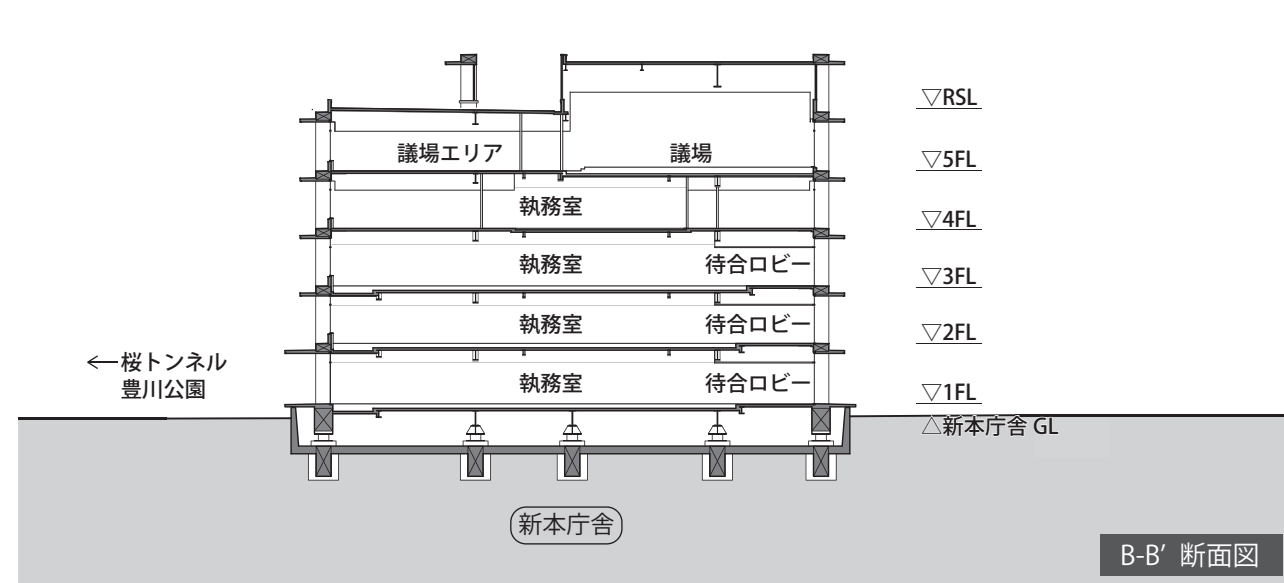
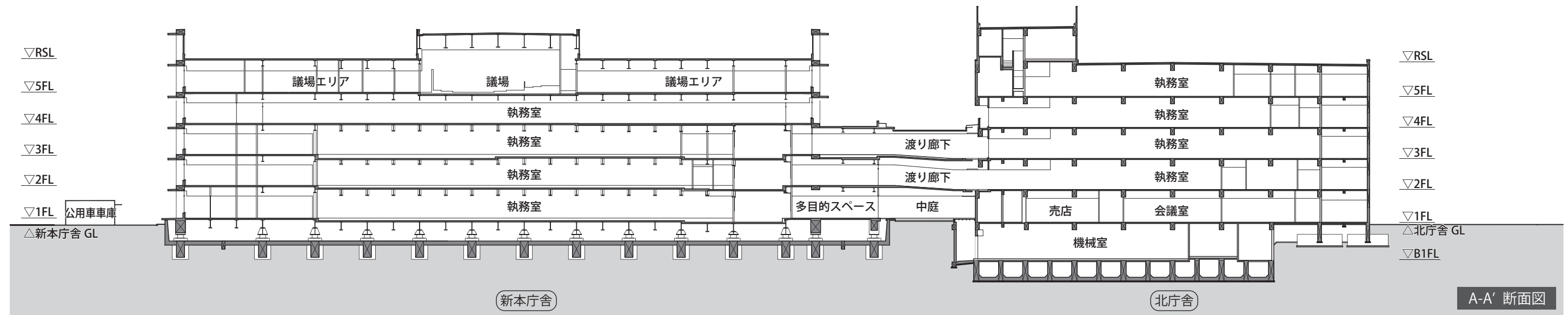
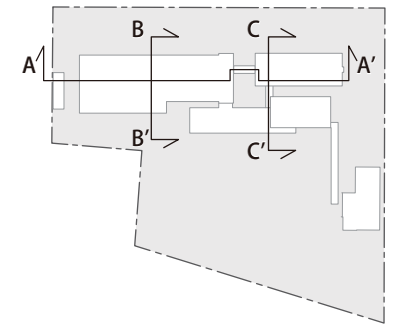
教育委員会



- 執務
- 会議
- 議会
- 倉庫・書庫
- その他
- トイレ・階段・機械等
- EV(エレベーター)

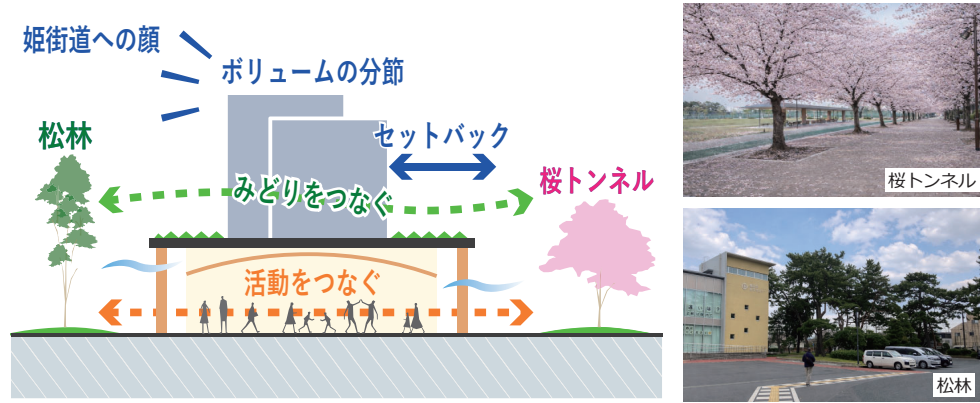
断面計画

- ・新本庁舎の1階床レベルは防災センターと同様に、地盤レベルより1m上げることで浸水させない計画とします。
- ・新本庁舎、市民交流棟とも既存北庁舎との接続を考慮し、階高設定を合わせた計画とします。
- ・接続通路は勾配を1/12以下に抑え、庁舎間のスムーズな移動に配慮します。



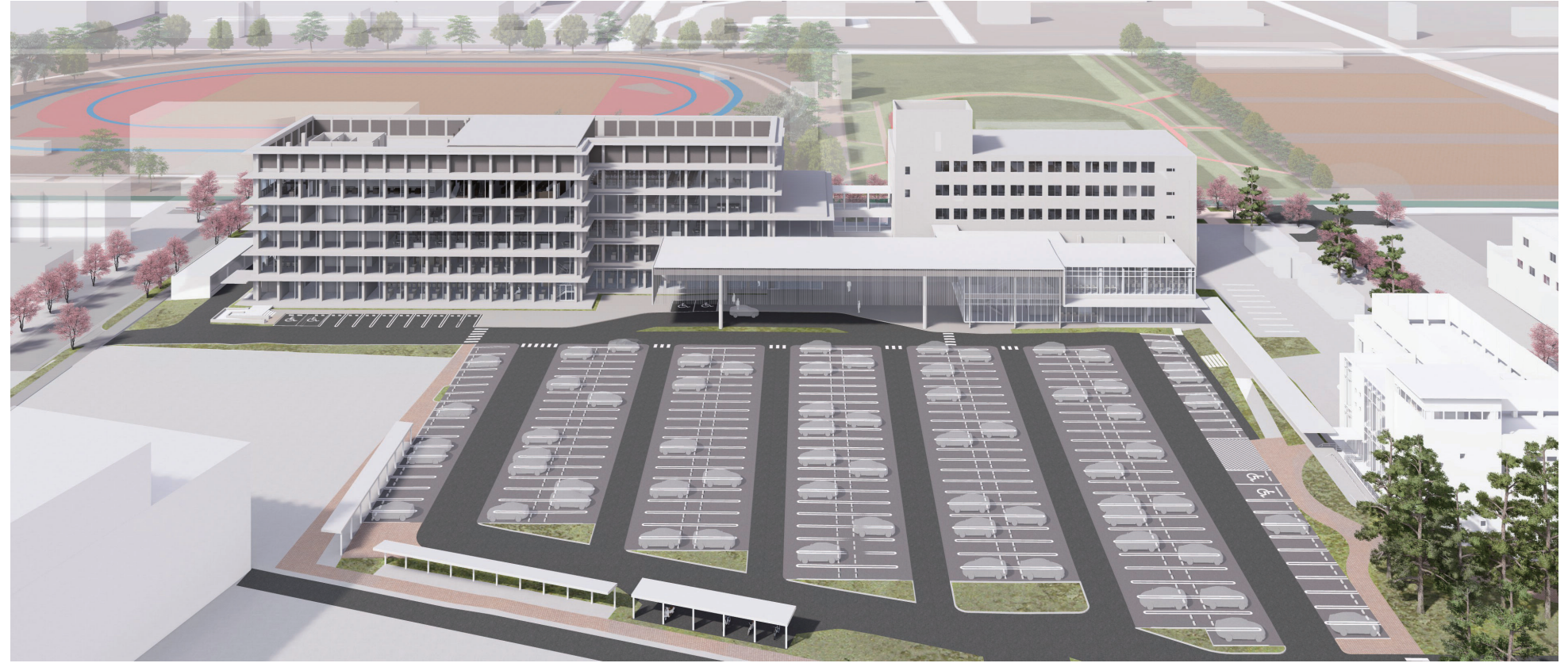
外観計画

外観デザインコンセプト



- ・新本庁舎の建物ボリュームを分節、外壁面をセットバックすることで圧迫感を低減し、豊川公園、桜トンネル、既存松林といった周囲の景観資源に調和する外観計画とします。
- ・主な外装を壁柱とガラス・腰壁で構成することで、建物全体を軽量化し、構造計画に資する計画とします。
- ・建物周縁部に居室を配置し、自然採光・排煙が可能な明るい屋内環境を実現します。停電など災害時にも有効です。

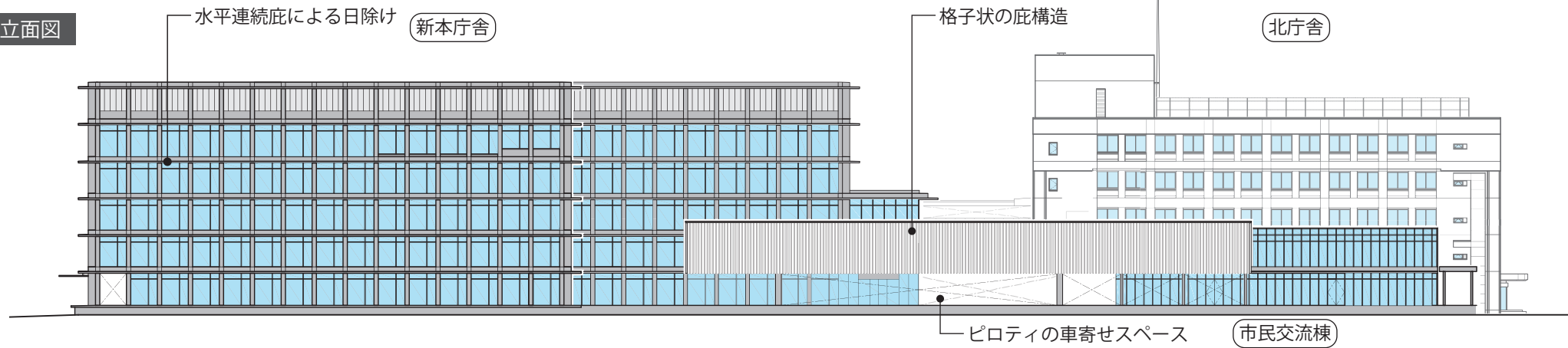
イメージパース



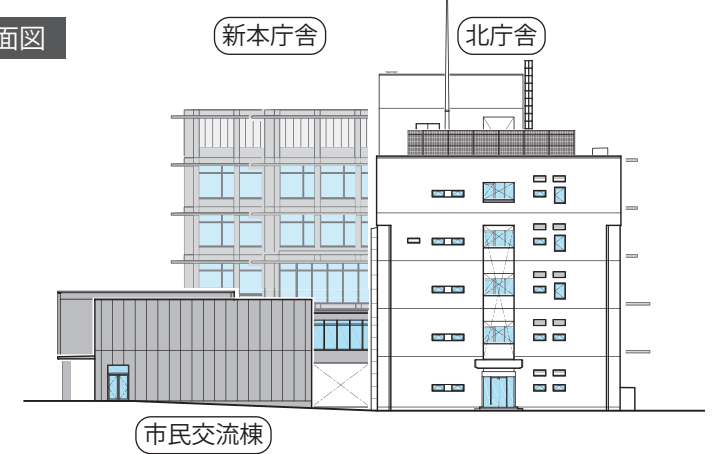
敷地南側から望む

※ 保存する松については引き続き検討を行い、イメージパース上の表現と変更となる可能性があります。

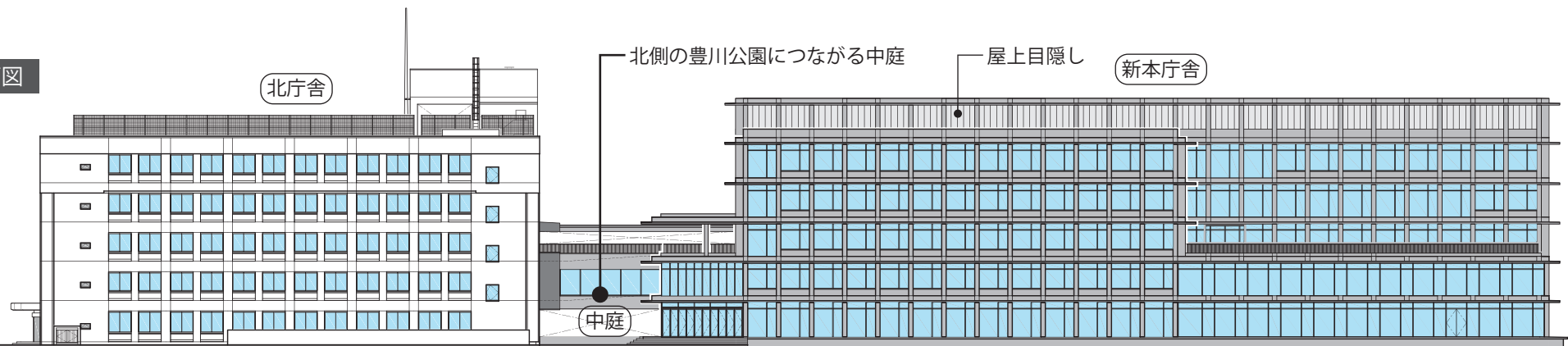
南立面図



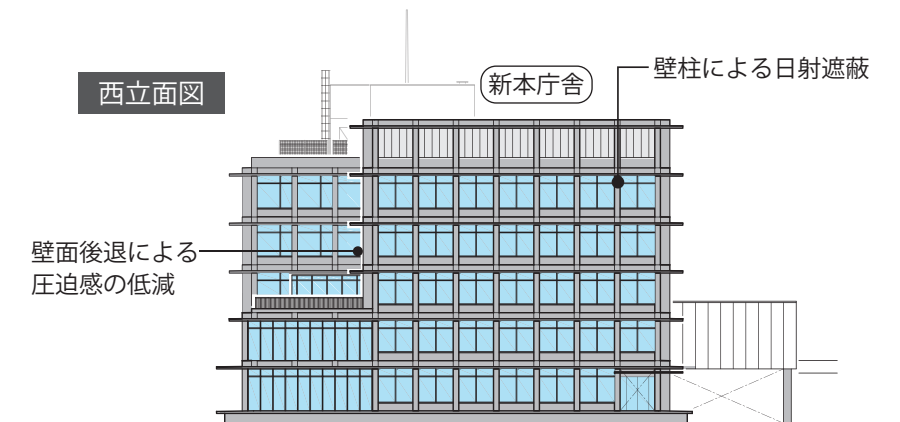
東立面図



北立面図



西立面図



※外壁の仕様については引き続き検討を行い、図面上の表現と変更となる可能性があります。

業務継続性の確保を第一とした多重の安全計画

安心安全を確保する免震構造

- ・新本庁舎に基礎免震を採用し、大地震の被災直後でも本庁舎全体の機能を保全します。
- ・市民交流棟は耐震構造とし、耐震安全性の分類（構造体：I類）として高い耐震性能を確保するため、災害時でも機能保全を図れる計画とします。

浸水を防ぐ多重化対策

- ・新築される1階床高さを防災センターと同様に、地盤レベルより1m上げることで浸水させない計画とします。
- ・北庁舎1階には、水害時に地下に水が入らないようにする対策として、防水板を設けます。

災害時に平常時機能を素早く機能転換

- ・インフラ途絶時にも防災活動拠点としての機能を維持するとともに、防災センターと連携して、迅速な機能転換を可能とします。
- ・市民交流棟は、平常時は大会議室の機能を持ち、非常時は災害活動スペースとします。
- ・2つの変電所からの電源引込とする事で、災害時の送電トラブルの際に電源供給の確実性を高めます。
- ・敷地南側、西、東に出入口を設け、災害時には三方から迅速なアクセスが可能な計画とします。
- ・敷地南側にフラットな駐車場をまとめて設けることで、非常時の物資搬入や災害活動拠点として機能します。
- ・非常時に必要な機能については、72時間分の電源供給の確保を備えた非常用発電機を設置します。
- ・上水は3日分を、雑用水は1.5日分を受水槽で確保し、不足分を井戸水の揚水などで確保します。
- ・緊急汚水槽を7日分設け、災害時の対応とします。

自然の力を活かし省エネルギーで環境に優しい庁舎

自然の恵みを最大限に活かす

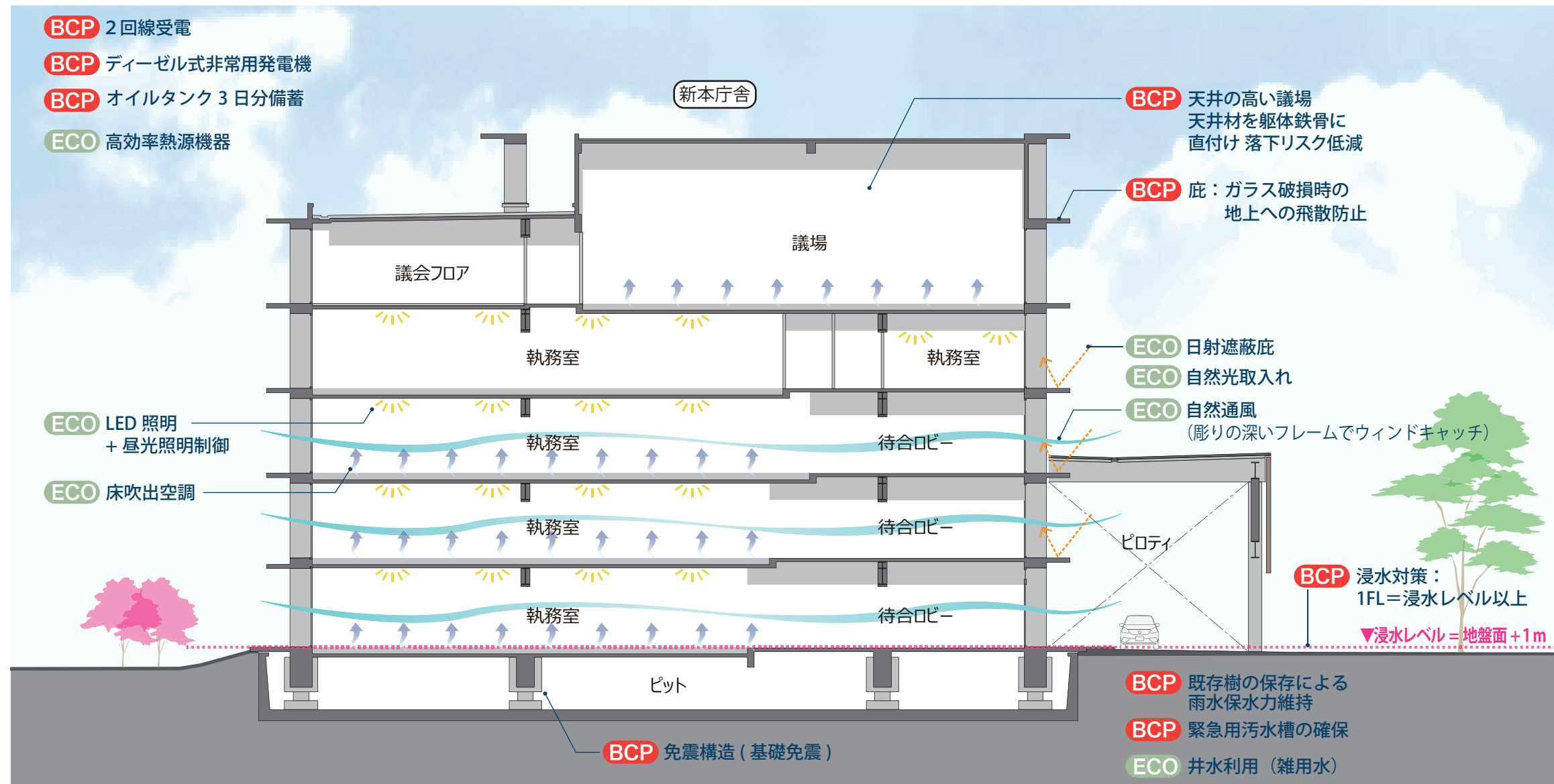
- ・既設井戸水は雑用水として有効利用します。
- ・既設太陽光パネルを継続活用します。

快適性と経済性に配慮した設備計画

- ・断熱性能の高いガラスを使用し、建物外装の断熱性能を上げ、内部の熱負荷を抑えます。
- ・執務エリアや議場は床吹き出し空調の採用により、居住域に重点をおいた空調とします。
- ・トイレには人感センサー照明を採用し、電力消費の無駄を省きます。

ライフサイクルコストを抑制し長く使われる施設づくり

- ・ZEB Ready 相当の省エネルギー性能を備えることで光熱費を抑制し、ライフサイクルコストの低減を図ります。



コストを抑えつつ、快適性と機能性を最大限担保する北庁舎改修

- ・外壁は部分補修及び全面コーティングのみの最小限の改修とし、既存タイルの剥離を防ぎます。
- ・執務室空間は無天井化とし、災害時での物の落下を防ぎます。

